



ふたご新聞

2018年 12月号

尼崎市保健所 健康増進課

〒660-0052

尼崎市七松町1丁目3番1-502号

TEL 06-4869-3033

FAX 06-4869-3049

12月3日（月）は、今年度4回目の「ふたごのための育児教室」でした。

今回は3組のママとふたごのお子さんたちの参加がありました。



今回は『入園について聞いてみよう』というテーマで、

ひょうご多胎ネットの森光子さんをお招きしました。

森さんは、みつごの男の子と3歳上のお姉ちゃんを育てられ、また幼稚園教諭として

働いていた経験もあることから、母親と幼稚園の先生の、両方の立場からお話を伺いました。

森さんが4人のきょうだいの育児をする上で大切にしていたこと



<子どもとの接し方>

- 多胎児は同じように思われたり、比べられたりしてしまいやすいので、幼稚園から中学校まで“誕生日が同じきょうだいと思って接してください”と、ひとりひとりの個性を見てもらえるように伝えていた。
- 小さいうちのおもちゃやお菓子などの与え方について、夫婦間でも考え方に差がある。おもちゃは一人に一つずつ買い与えるのか、それともみんなで共有するのかなど、話し合いをしておくことが必要。
- 親とそれぞれの子どもの接し方は同じぐらいになるようにした。パパが抱っこするのはこの子などは決めない方がよいと思う。
- きょうだいがいれば、一番上の子のお世話を先にすることも大切。



<生活の工夫>

- まず朝起きたらママ自身の化粧をすること→とりあえず出かけられるという気持ちの余裕を持つことで、子どもの行動を待つことができる。
- レンタルおもちゃやレトルトの離乳食など、育児が楽になるものを利用して。でもママによっては“自分でする”ことで落ち着く人もいるので、ママの落ち着くやり方を優先することが大切。





<集団生活にむけて>

入園する時に、一緒のクラスが良いの？別々のクラスの方が良いの？

→ふたごの関係性を観察しておくこと。

- ✓ いつも一人の子が積極的に自分のしたいことを言う場合：もう一人の子は自分の要求はないのか、それとも言えていないのかを観察する。
- ✓ いつも特定の子どもだけが叱られることになっていないかを気にしておく。

★ 座談会 ★

森光子さんとひょうご多胎ネットの大岸弘子さんにも加わっていただき、さまざまな意見交換をしました。ここで座談会でのお話を紹介します。



- お片づけが上手くできない。一人が片づけても、もう一人がカゴをひっくり返してしまう。

→ きれいに片づけることが目標ではなく、習慣づけることが目標。

ママがお手本を見せながら習慣づけることで、集団に入った時に“お片づけ”を知っていると輪に入りやすい。

2～3歳では理解できなくても、4～5歳になって、幼稚園に行ってからできることもある。

- 来年度から保育園へ。子どもが病気の時はどう乗り切れば良い？

→ 親や病児保育など、頼れるものに頼る。ママの息抜きになるなら良いが、しばらくは週末の遠出を避けて、体調を整えることも大切。

- 他の子のものを取ってしまう、順番を守れない・・・

→ ダメなことはママが間に入って声かけをしよう。

“順番”は幼稚園でも教えてもらえるが、家でもきょうだいの中で教えておくと入園準備になる。



最後に、みなさんからのアンケートのご感想を紹介します。

- 経験者のお言葉にとっても心強く、自信につながりました。
- 託児があって助かりました。色々お話が聞けて楽しかったです。

ご感想ありがとうございました。

